

◎熱帯の植物病害と病原菌の目録 (3) パプア・ニューギニア

SHAW, Dorothy E. : Microorganisms in Papua New Guinea (パプア・ニューギニアの微生物) Res. Bull. 33, Dept. Primary Industry, Port Moresby, 344 pp., 1984.

本書は3部構成になっている、第一部 (Part I) はパプア・ニューギニア (PNG) の人文地理誌概況、謝辞、使用の手引き、PNG における項目別要約からなり、特に最後の章で微生物の病因別、利用別の節目ごとの要約があるのが、他の目録類にないひとつの特徴である。

第二部 (Part II) では、PNG で報告された微生物とその基質(宿主)や分離源が採録されている。植物の病気をおこす病原では宿主のアルファベット順に整理され、各宿主毎に病原も a b c 順に並び、その病名、文献が列記されている。木本植物では、林木・果樹・特用作物・観賞樹木など75属130種以上に、伝染病と生理病を併せて750を超える病気が集録されている。採録病害数の多い樹木が PNG での重要作物としてみると、マツ類、イビル・イビル、ユーカリ類、柑橘類、チャ、コーヒーノキ、ココアノキ、ココヤシ、マンゴー、キャッサバ、バナナ、アブラヤシなどがあり、また広く各種の樹木に発生する病害としては、ボトリオディプロディア胴枯病 (*Botryodiplodia theobromae*), 赤衣病 (*Corticium salmonicolor*), ならたけ病 (*Armillariella mellea*), くもの巢病 (*Thanatephorus cucumeris*), 根こぶ線虫病 (*Meloidogyne* spp.), 材質腐朽病 (*Ganoderma* spp., *Phellinus* spp., *Rigidoporus* spp.), 白藻病 (*Cephaeleuros virescens*), 苗立枯病 (*Fusarium* spp., *Rhizoctonia solani*) があり、また病原菌の種は異なるが病状が似て広く発生するものにすす病とさび病がある。

第三部 (Part III) は病原糸状菌以外の各種病原微生物について、それぞれ宿主 (基質) 目録が編まれている。最後に文献と各種索引がある。

本書の著者ドロシイ・ショウさんは、1955年から1977年の間、PNG にあって植物病害の調査研究を行ってきた、オーストラリアの植物病理学者である。その間に採集した病害標本と、先人の遺した標本について、多くの専門家の協力をえて同定を行い、さらに文献による採録も併せて、本書を編んだものである。彼女は現在もオーストラリアの Primary Industry Department の植物病理学者として活躍している。熱帯の病害や病原微生物に関係する人にとって、きわめて有用な1冊の書である。

(小林享夫)